

# 組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：国際センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	自己評価
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	自己評価
③-1 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年8月に、日本の国際平和貢献20周年記念「岡山大学発の国際貢献を考えるシンポジウム」を広く地域に公開して開催し、学生や教職員、市民約90人の参加を得た。</li> <li>平成25年3月に、キャンパス・アジア主催で(財)日本総合研究所理事長の寺島実郎氏による特別講演会「アジアの真の安定のための視座」を広く地域に公開して開催し、学生や教職員、市民約200人参加の参加を得た。</li> <li>国際協力機構(JICA)の団体研修を夏季にガーナから12人、冬季にアフリカ地域から12人約2か月間受け入れ、新規プログラムとして秋季にセネガルからの研修員を11人の研修員を約3週間受け入れ、本学附属学校及び地域の小学校での授業実習等を行い、国際理解を深める機会を提供した。</li> <li>留学生と地域住民との交流を行うため、小学校及び高校訪問や週末型ホームステイ、NGO会員との交流会を企画実施した。</li> </ul>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>④センター業務</b>	自己評価
④-1 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本学におけるグローバル人材育成の先導的な役割を果たすコースとして、平成25年4月から、学部学生(定員50人)を対象に、実践的英語教育の徹底、異文化理解・アイデンティティ形成等を骨子とする「グローバル人材育成特別コース」を新たに開設することを決定した。また、ASEANとの交流促進について、国立六大学(旧六大学)が連携して交流推進を行うため、平成25年3月「国立六大学国際連携機構」を設置、AUN(ASEAN大学連合)等とのコンソーシアム型交流事業として平成25年夏季にタイ国内でサマーセミナーを開催予定である。</li> <li>2 平成24年4月に広島大学北京研究センターの共同利用により、中国の有力大学との学術交流、学生派遣、留学生の受入を拡充することを目的とした北京事務所を設置、積極的な広報活動を行っている。8月から長春事務所に現地スタッフを配置、事務所の体制を整え、有効活用している。ベトナム事務所を通じてフエ大学院特別コース第6期生の学生募集を行い、本学での書類選考後、現地で面接試験を行い8人の入学者決定した。 また、国内での留学説明会の他、海外では、サウジアラビア、米国、中国、アイルランド、ベトナムでの留学フェアに参加、ブースを設けて留学生獲得のための広報に努めた。</li> <li>3 平成24年10月に東京で開催された海外の大学約100校が参加する留学フェアに新規に参加、多数の海外の大学と交流推進に関して情報交換を行った他、米国NAFSA会議に加え新たにアイルランドEAI会議にも参加、欧米の大学との交流を深め、学生交流のための協定締結に向け交渉を進めた。その結果、平成24年度内に米国のカリフォルニア州立大学フラートン校、アラバチアン州立大学、英国のイースト・アングリア大学との協定を締結した。さらに米国のポートランド州立大学、ノーザンアイオワ大学、オーストラリアの西オーストラリア大学、カナダのアルバータ大学とは、平成25年度からの学生派遣を目指し、交渉を進めている。また、これまでに学術交流のあった教員を中心に交渉を進め、10月に米国のピッツバーグ大学及びチャタム大学との協定を締結した。 語学研修では、グアム大学・ポートランド州立大学・アデレード大学(夏期・春期)を実施、約100人の学生が参加した。また、国際センターから応募したショートステイ・ショートビジットプログラムが採択され、9月にASEAN大学連合(AUN)へ学生24人を派遣、3月にAUNから30人を受け入れた。さらに、大学の世界展開力強化事業(日中韓)について、3期間の協定締結を進め、併せて関連する学内規程の整備を図り、サマーセミナー、リージョナルカンファレンス等のプログラム実施を支援している。</li> <li>4 平成24年度に岡山大学留学生同窓会として、上海支部・韓国支部・長春支部・ベトナム支部・台湾支部・東京支部・バングラデシュ支部の7支部を立ち上げた。また、平成24年10月各支部の代表と設立準備委員会の代表を招聘し、第2回留学生同窓会・総会及び第1回ミニシンポジウムを開催した。また、10月から留学生同窓会のホームページを立ち上げ、留学生ネットワークの強化を図った。</li> </ol>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな地域での留学フェアの参加。</li> <li>新規海外事務所の設置。</li> <li>センターが実施する短期交流プログラムにより本学学生100名程度を海外へ派遣。</li> <li>同窓会支部(海外及び国内)3カ所の立ち上げ支援。</li> </ul>
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>昨年度示された「国際戦略ビジョン21」に基づき、本センターでは、学生の派遣先となる欧米の協定校開拓、海外事務所等の海外拠点の活用による優秀な留学生確保のための様々な広報活動、留学生同窓会の設立及び特別講演会等の開催による地域への国際化推進を実施する等、様々な取組を積極的に行い、本年度の目標に沿った国際化の一層の推進を図った。</p> <p>次年度は、国際センター運営委員会の組織を見直し、学生の派遣・受入体制の強化や戦略的な本学の国際化推進のため、全学的協力のもと国際化推進に向け様々な検討を行う予定である。</p> <p>また、グローバル人材育成特別コースの開設、留学生倍増計画等、本学における国際化推進事業を実施するために、国際センター教員及び事務の組織体制については、継続的な改善が必要となることが見込まれるため、さらなる検討を行う。</p>	